

2018年 2月 23日(金)

未来への扉



高等特別支援学校 支援部 第105号

今年度も残りわずか、3年生は1週間後にはよいよ卒業です。生徒の皆さんもご家庭のみなさんも、これから始まる新しい生活に、大いなる期待を膨らませていることと思います。それと同時に、この高等特別支援学校での3年間の生活に思いを馳せているのではないのでしょうか。

私は今年この高等特別支援学校に赴任しました。この学校のことは、卒業する3年生の方がはるかに詳しく、楽しい思い出もたくさんあると思います。今年1年でその1部を共有できたこと、とても嬉しく思っています。

私は行事が大好きです。もちろん自分も忙しくなるし、生徒たちも疲れるし、練習や活動の過程ではさまざまな問題も起こります。しかし、大きな行事をやり遂げた後の「達成感」や「充実感」は格別です。最近の子供たちを見ていると、全力を出すことや一生懸命に取り組むことを、「恥ずかしい」と感じたり、「しんどいことはやりたくない」といった雰囲気を感じるが増えました。しかしその中には、「全力を出したことがないから、出し方がわからない。」「一生懸命に取り組めるものが見つからなかった」といった経験不足からくるものも多いのではないかと、思うようにもなりました。今までの生活の中で、夢中になって取り組めることに会うことができなかったのかもしれない。

高等特別支援学校では、学校をあげて行事に取り組みます。体育大会の演技では、中学校時代には指摘されなかったようなことまで厳しく注意され、文化祭の劇では、今までで一番大きな声でセリフを言い、歌うことを要求されます。様々な準備も自分たちでおこないます。なん

となく人に任せて今まで進んできたことを、自分たちでおこなうことで、“自分がやらないと”と責任感が芽生え、“より盛り上がるように”と主体的に参加できるようになっていきます。そして毎日のように続く練習で、怒られながらも自信をつけ、集団としての連帯感を感じ、だんだんと完成していく演技に期待をし、“成功させたい”と願うようになります。自分一人で取り組んでいるわけではないので、体も気持ちも疲れることも多いです。そんな時はもちろん途中で休憩してもかまいません。最初から最後まで集中して取り組める人もいれば、休憩しながら力をためてまた取り組む人もいます。それぞれの一生懸命の形は違います。でもそうやって一生懸命取り組むことでしか「達成感」や「充実感」を味わうことはできません。

私たちは子どもの時からの経験を通して、自然に「一生懸命に取り組むこと」や「全力で取り組む」ことを身につけてきました。高等特別支援学校では、その力を「学ぶ」ことで身につけているのです。先日の文化祭では、3年生がその力を見せてくれました。一生懸命に過ごしてきた3年間を表現した学年劇「エール」は、まさに一人ひとりの全力が感じられ、見ている私たちもその演技に引き込まれ、演じている3年生も幕が閉じた瞬間には感極まったことと思います。すばらしい発表でした。

毎日の忙しい学校生活の中で、「やる気」を身につけた生徒たちが、一生懸命に働いて、「ありがとう」と言ってもらえる。その「ありがとう」の言葉に充実感を感じられるようになれば、きっと長く働いていくための原動力となると信じています。

3年生の皆さん。これからもここで学んだことを胸に、自分の人生を精一杯楽しんでください。

ご卒業、おめでとうございます！

1学年 学年支援部 S. A

うちの先生♪ Y.Y 先生

<◆ゴシック、(ゴシック)はレポーターY>



☆寄宿舎のY先生にお話を聞いてみました～

◆先生のご出身はどこですか？

南あわじです。(海の近くですか?) いえいえ、周りは田んぼと畑ばかり。イングランドの丘が近いかなあ。(コアラに癒されていた?) コアラってほとんど動かないのでちょっとつまなくて、私の癒しにはならなかったです(苦笑) ストレス発散方法はピアノを(ひとりで)弾くことです♪

◆あわじならではの話を聞かせてください。

中・高の部活で「郷土部」に入っていたことかなあ。(郷土部ってどんな部活ですか?) あわじの人形浄瑠璃を演じるんです。三味線の伴奏で太夫が物語を語るのが日本の伝統芸能の“浄瑠璃”で、その浄瑠璃に合わせて人形を操るのが人形浄瑠璃なんですね。そこで三味線を弾きたくて入部したんですけど三味線はすごく人気だったのであきらめて、私は語りの“太夫”を担当していました。(舞台とかもあるんでしょう?) そう、けっこう遠くまで行きましたよ。中学で北海道と群馬へ行って、高校では台湾とフランス公演に出ました。(貴重な経験ですね☆もっと詳しく聞いてみたいですね)

◆では、今までどんなお仕事をされたことがあるんですか？

学生時代、夏休みにホテルで住み込みのアルバイトをしました。“南あわじOイールホテル”で家から30分のところだけ住み込みでした(笑)(近っ!) カフェの担当をしながら夜は屋台でかき氷も作っていました。勤務時間以外では温泉に入り放題でしたよ。そして昨年度まで数年間は事務職をしていました。でもやっぱり生徒と過ごせるのが楽しいです♪ 毎日が新鮮で、寄宿舎で働くことが出来て良かったです◎

◆あ、自家製キムチの話を教えてくださいよ。

あ～、あれは私が作るんじゃないんですよ。母です。(お母さん、本格的ですね☆) 母は韓国人なんですよ。(お母さんのキムチとビビンパが食べたいなあ～と思うYでした。さてこのお話の続きは直接ご本人に聞いてみてください◎)

◆ではこれからやりたいことはなんですか？

いつかはあわじに帰りたいですね。あわじには電車が走っていないんですね。そのせいか、ゆったりした時間が流れている気がします。そしてやっぱり学校で働きたいなって思います。(柔らかな印象のY先生とゆったりしたあわじ。良い雰囲気ですね)